



CLASSIC
CAMERA

MAGAZINE Kagoshima 編集：大庭一也

VOL.
01
改訂版

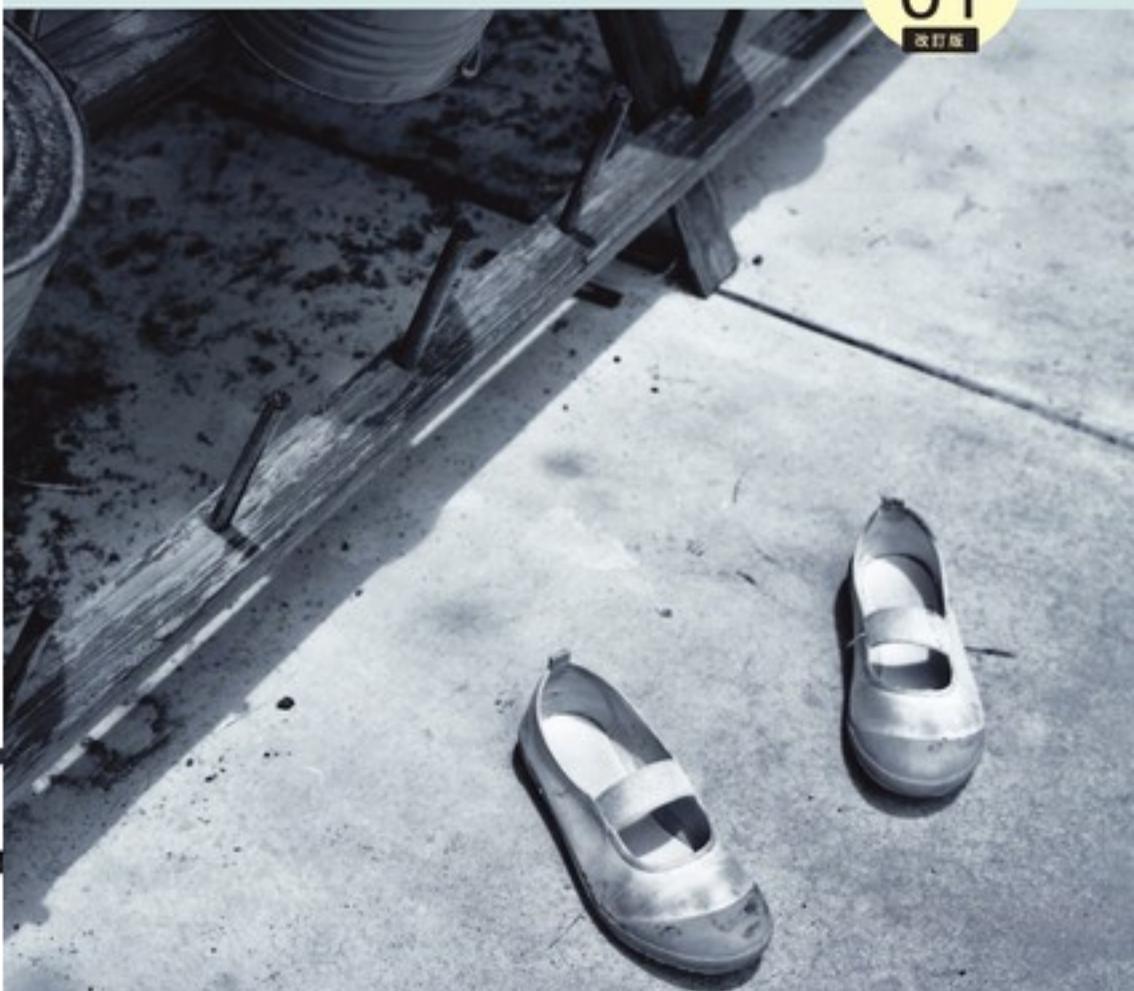


CLASSIC CAMERA

MAGAZINE Kagoshima

鹿児島のフィルムカメラ好き人間
「15人が作った写真集」

VOL.
01
改訂版



鹿児島のフィルムカメラ好き人間 「15人が作った写真集」

- 01 自転車で行く小旅行
MAMIYA-C220
- 03 祖父のカメラ
キャノネットQL-17
- 05 思い出のカメラと遊ぶ
オリンパスXA
- 07 Forever 米谷美久さん
OM-1・Pen FT
- 09 人間力に応えるカメラ
ニコンF3
- 11 松下写真事務所
Mamiya7・ニコンFE
- 13 プラモ撮影がはじてのカメラ趣味拡大路線人
EOS630
- 15 キヤノンA-1をハーフサイズカメラへ改造中
キヤノンA-1
- 17 ドイツライカの旅
ライカIIIa・ペンタックスMX
- 19 祭
ミノルタα-9
- 21 日常をさり気なく撮る楽しみ
ペンタックスME
- 23 デコッパチ
ミノルタα807si
- 25 旅の終わり
コダック シグネット35
- 27 カメラサービス鹿児島
ペンタックスKX
- 29 マルチネス・デビッド
ペンタックスMX・ヤシカエレクトロ35・DIANA



日本の金属カメラというものは、随所に世界へと誇れる部分が散りばめられているが、その中でも細かい部品同士のカシメ技術もそのひとつではないかと思う。

ペンタックス(当時 旭光学工業株式会社)に入社して間もない私は、SPの生産ラインで、おぼつかない作業をしている中、窓際の机で坦々と、カシメ打ちをしているおっちゃんが気になっていた。

60歳後半のその人は佐々木のおっちゃんと皆から呼ばれ、大きな体を丸めて小さな2個の部品をセットしては ポンチとハンマーで叩く。

“コン、コンコン”

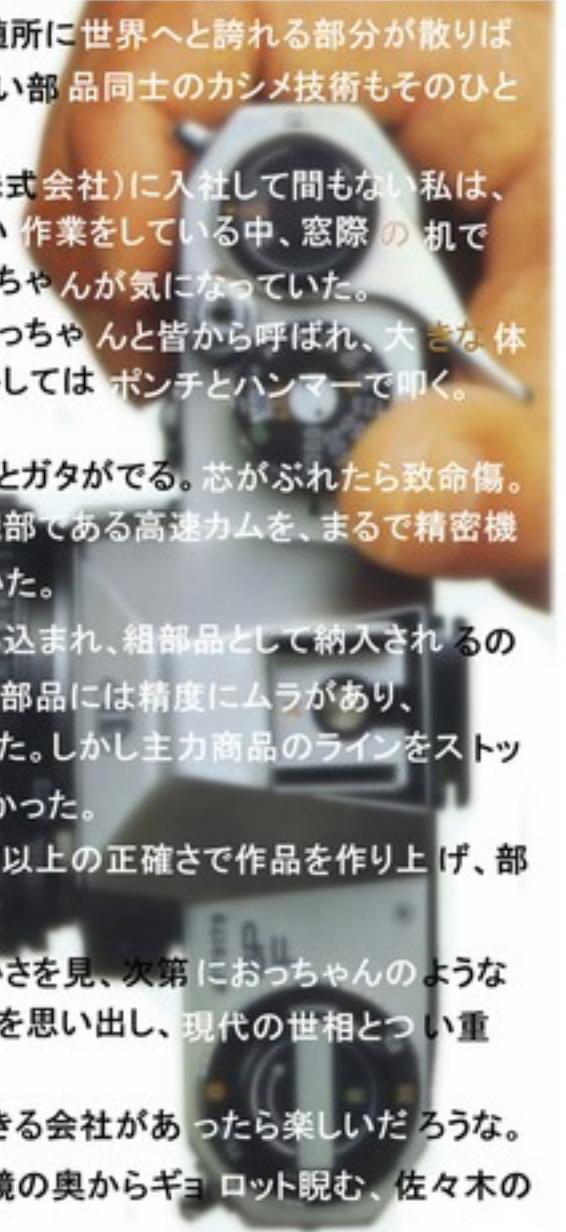
強すぎると頭を潰してしまう。弱いとガタができる。芯がぶれたら致命傷。一定の強さと角度でカメラの心臓部である高速カムを、まるで精密機械のように同じ力で打ち続けていた。

普通、部品のカシメは外注で組み込まれ、組部品として納入されるのだが、当時外注から納入される組部品には精度にムラがあり、ロットによっては歩留りが悪かった。しかし主力商品のラインをストップすることは許されることではなかった。

その中で、あのおっちゃんは機械以上の正確さで作品を作り上げ、部品を作り続けていた。

こんなところに日本の技術の確かさを見、次第におっちゃんのような職人が再雇用されなくなった現実を思い出し、現代の世相とつい重ねてしまう。

あの熟練技術者達が力を発揮できる会社があったら楽しいだろうな。短気で、鼻にちょっと乗った老眼鏡の奥からギヨロット睨む、佐々木のおっちゃんが懐かしい。

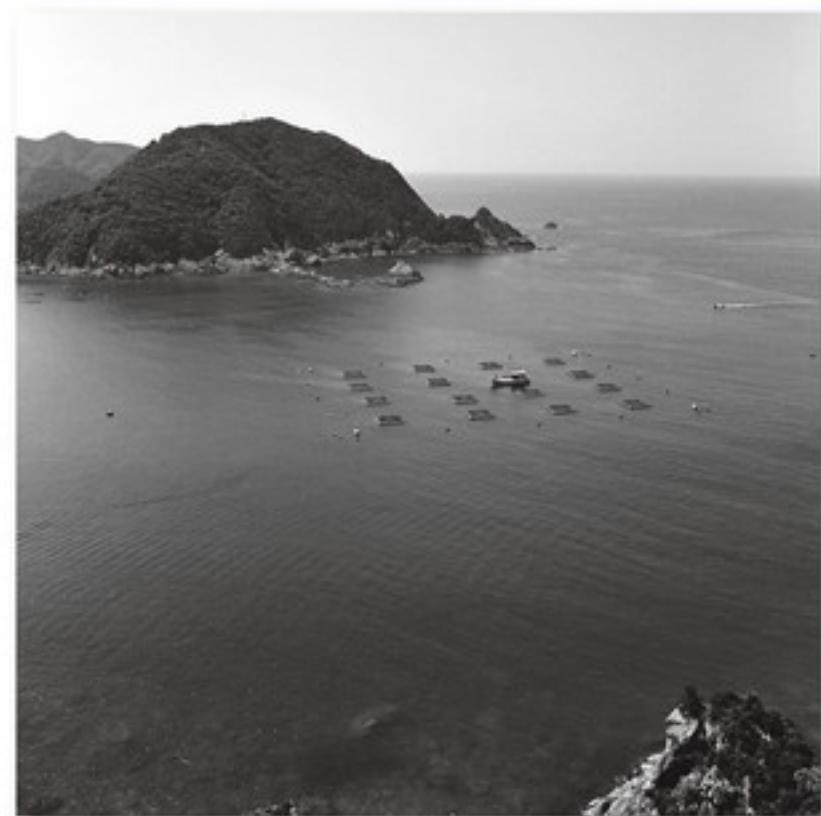


カメラサービス鹿児島

TEL 099-259-0979

<http://www1.bbiq.jp/cs-kagoshima/>
カメラ・レンズ修理 中古販売 暗室レンタル等

自転車で行く
小旅行



浜崎 健 昭和57年生

モーター・バイクでツーリングに行くのが好きだった頃、キレイな風景を撮りたいと思い、親父が持っていた300万画素のコンデジを使い始めたのがきっかけ。コンデジを使っている内に段々と一眼レフへの思いが募り、今年の初めに「AE-1」を購入。だが、飲み会の席で“カッコイイ”二眼レフに出会い、後に「MAMIYA C220」を手に入れる事になった。



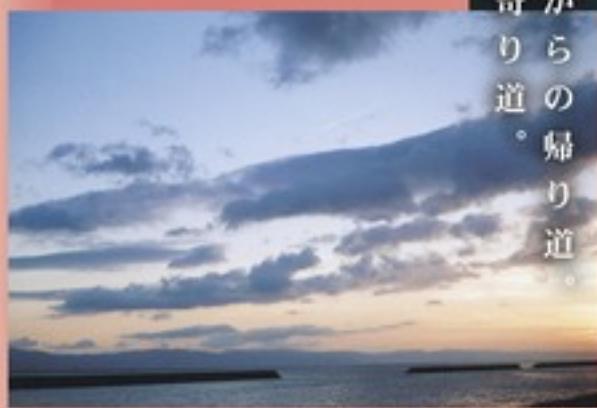
MAMIYA C220

二眼レフで唯一レンズ交換が可能なCシリーズの末弟。
所有しているレンズは「55mm」「80mm」「105mm」。
これで写真を撮っていると、年配の方に声をかけられたりする。





かい
メつ
ラを
持つ
たし
らて
嬉しい
したく
て母の
つてい
家に
寄か
りら
道の
。帰
り道。



かい
メつ
ラを
持つ
たし
らて
嬉しい
したく
て母の
つてい
家に
寄か
りら
道の
。帰
り道。

今村 文子

大学時代に写真サークルに所属した事が始まり。卒業アルバムの製作にも携わる。
長く写真から離れていたが、教室への想いを露らせカメラサービス真光島のホームページを発見。
カメラそのものへの興味は薄いのですが、この美しい参加して良いのでしょうか…？（笑）

Canon QL 17

祖父が生前愛用していたカメラ。
鏡面に手間取り、被写体を長く待たせていたそうで、写真に残る当時まだ幼かった母の表情は不機嫌なものが多い。
毎年恒例になっている「祖母の日」旅行で、今年は大活躍を果たした。



祖父のカメラが想を吹き返す。　
最初にこのカメラのシャッターが切られたのは
おそらく30年以上前のことだ。
この夏、祖父の十三回忌を迎える。
祖父のカメラに写る祖母は、やさしく湯がい
光に包まれていた。

旅先で祖母と撮り合った。
「今日は荷物ちうものじゃない」と言われていたとの
ことで、祖母が撮影した初めての写真。
おじいちゃん、こんなに大きくなりました。



思い出のカメラと遊ぶ

大学生の頃、私はなぜか二重像合放式のピント合わせに興味を抱いていた。鹿児島の実家に帰省したとき、どう見てもあまりはやつてなさそうなカメラのケースに入った新品のXAが商品棚にあるのを見てしまったのだ。ほんとうほん感じで見るからに売れ残りで店に立つときは販売者の雰囲気だ。XAは確かに二重像合放式のピント合わせのはずだ。かなりなり開発した。平静を保つて聞いてみた。

「素人にも使えるんですか？ 誰しくなかつたら使ってみようかな。」
すると主人は不良在庫を処分するチャンスと見たか
とばかり、安い一眼機である。母からガソリン代として
預かった二万円を使って買ってしまった。
「やうばの二万円にしもう」とかうそ言われるんじゃない
じかと思ひ過ぎるようになって出た。初めて距離計の力
メーター手に入れ気持ちが悪くなるとした。

「このXAを使うようにならう」と10年たった。これまで二回ほどオーバーホールした。今でも時々フィルム
を読み込める。また、古い中判カメラを使うときの調
出音として使っている。他のコンパクトカメラ例えは
キヤノンなどと比較すると画質はものとつながと思
う。しかし、昔にうつて一番最初の二重像合放式のレフ
ファインダーカメラとして手放せない思い出のカメ
ラだ。



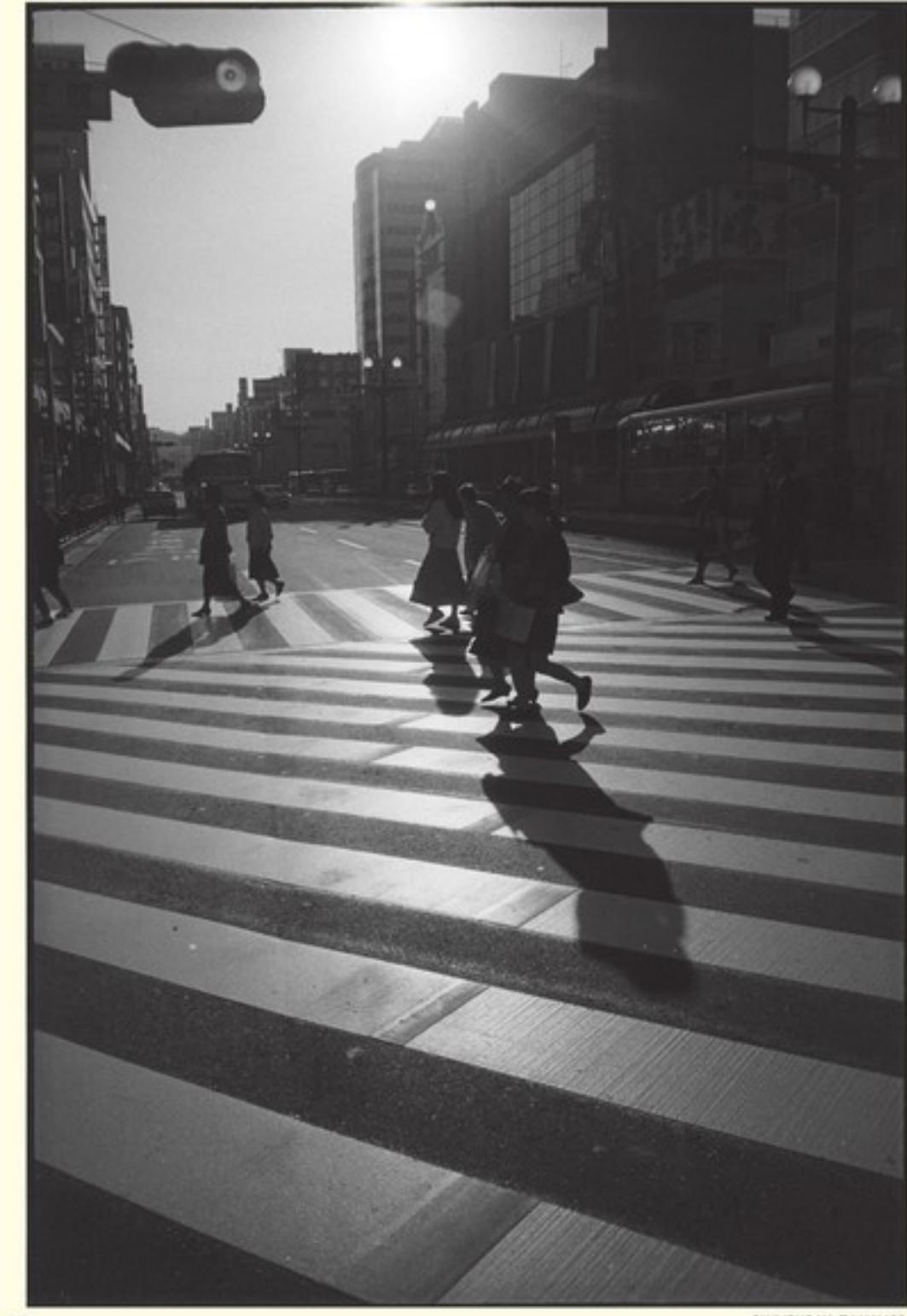
OLYMPUS XA T-MAX100



OLYMPUS XA T-MAX400



OLYMPUS XA NEOPAN SS



OLYMPUS XA T-MAX400



吉岡 康弘
1968年生

16歳で初めて暗室を体験、
それ以来モノクロ写真一筋。
グループ展FOTOをを中心に
南風、ロクロク展等で作品を
発表している。



OLYMPUS XA

プレ、ピンぼけの写真を撮りたくない。そのため手ぶれしないシャッタースピードで設れるところまで設って撮ることが多い。XAのメーターは逆針式なので見やすい。やや複雑な計の働きが、いかにも「この光はこのくらいかな」と考えているようだのしくなる。



Olympus
Pen FT



profile



大脇 直 昭和33年生

印刷会社の営業マン。

カメラとの本格的な出会いは大学の授業だった。写真撮影や現像処理を一通り学んでその奥になった。その後、社会人になり写真熱は冷めていたが、いつしか自分の愛機がクラシックカメラの仲間入りをしているのに気がついた。それからクラシックカメラ収集と振り比べが趣味のひとつになった。
仕事ではデジタル一眼を手にするが、趣味の世界では銀塩カメラが一番です。



OLYMPUS
OM-1

Forever 米谷美久さん

2009年7月30日の夜、寝つきが悪く、数あるガラクタカメラの中からなぜかOM-1をひっぱり出し、空シャッターを切ったりファインダーをのぞいてあちこちにレンズを向け、ピントを合わせて遊んでから寝た。

翌日、毎日チェックしている「田中辰徳さんのブログ」を開覧していて、昨日、米谷美久さんが亡くなられたことを知った。緑もゆかりも無いのだけれど虫の知らせだったのかなと勝手に思った。寂るぞ、ベンデジタルの発売を見届けるかのような天才設計者の最後でした。

亡く残されて暫くして2台目のペンFTシルバーボディを手に入れた。形見だと思ってこれからも米谷さんの残した鉢機たちを大事に使って写真を撮っていきたいと思う。

限りのすばらしいカメラを産み出してくださりありがとうございました。

合掌



A : オリンパスOM-1 2B EUF3.5
B : オリンパスPEN FT ブラックボディ 100 EUF3.5
C : オリンパスPEN FT シルバーボディ 40 EUF1.4

米谷 美久

1933年1月8日香川県高松市生まれ。少年の頃からカメラに興しみ、写真を撮ることが好きだった。大学では機械工学を学ぶ。1956(昭和31年)にオリンパス光学工業株式会社(現在のオリンパス株式会社)に入社。カメラの設計に従事し、「オリンパスペン」(1959年)、「オリンパスペンド」(1963年)、「オリンパスOM-1」(1973年)、「オリンパスXA」(1979年)など、写真業界に一大ブームを巻き起こし、世界のカメラ史に名を残す数々のカメラ開発に携わってきた。
2009年7月没。





Nikon F3P+500ミリ



Nikon F3P+500ミリ 1/60秒 f8 100

人間力に応えるカメラ

日常では想像もできないスピードで大空を飛び、高难度なテクニックを使いつけて振り絞られるエアーショーは、誰の心にも情熱を燃起し、パイロットに複雑の意を感じるもので

私はポジフィルムの発色が好きで、カメラも八十年代を代表する名機F3を愛用しています。パイロットの鍛え抜かれたテクニックや一糸乱れぬパフォーマンスを残したい

一心で、真剣にのめり込んでいます。

ファインダーに映えられることを豪快なような飛行機の運転じとして、撮影・ピント・構図を考え、一瞬を切り取る事は至難の業で、私自身カメラ「一もつと上手くなら」と苦言を呈されているのがうつです。

現在のカメラと違い操作する人間の力が試される愛機は、私の感性を磨き、知識を豊かにする大切な武器です。

西脇 巧 昭和42年生

ポジフィルムの発色に魅了され、35ミリカメラで航空ショーや子供達の写真を中心に撮影しています。最近中判カメラライチが入り、中判フィルムの世界への入り込みそうです。

Nikon F3P 80年代を代表する名機

世界最高のマニュアルカメラを目指し、1980年から20年間製造された名機です。

巻き上げの滑らかさや、ニコンカメラ唯一の軽走行電子シャッターの軽やかなレリーズなど、今更説明不要のカメラです。



Nikon F3P+500ミリ トレビ1000 F5.6 AE ▲2/3



松下 瑞樹 昭和49年生
写真スタジオに勤務後独立
TEL&FAX:099-801-7284
E-mail:matsuishi@tnb.co.jp
<http://blog.livedoor.jp/matsuishi84/>



ニコンF1

マニヤア

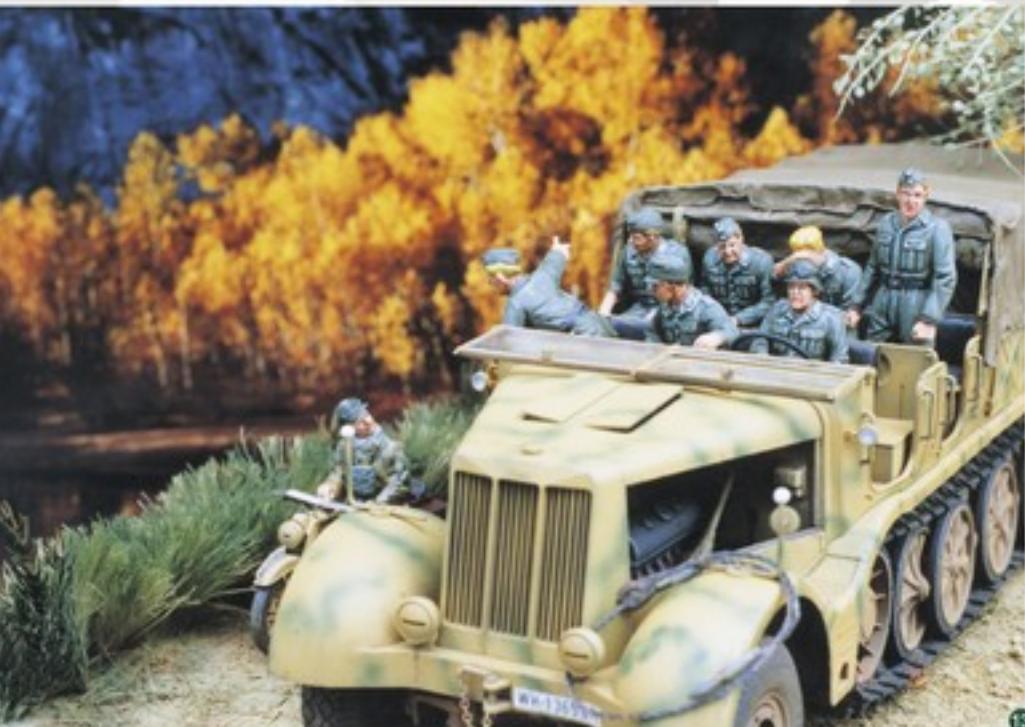
プラモ撮影が嵩じての

カメラ趣味拡大路線人



桑原 涼 昭和37年生

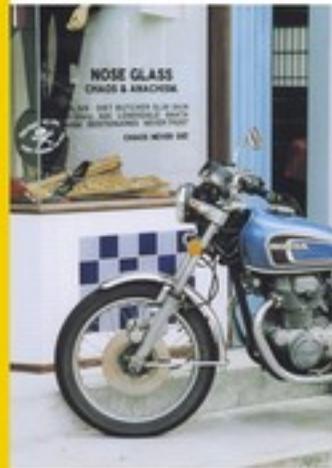
カメラは一眼レフにマクロレンズを差し、もっぱらディオラマの撮影に。某プラモデルメーカーの模型コンテストに応募するのが目的でした。しかし2年ほど前に、出張先の東京駿府の古中カマ屋さんからと入ったきっかけで、メカニカルなフィルムカメラの蔵に…。最近はそのストップアンドスケープづくりなど趣味の範囲が広がる一方です。どちらかと説えば撮るより何か作っているほうが性に合ってる?



撮
New FD 50ミリ F1.4 1/125 F4
バイク
New FD 85ミリ F1.8 1/500 F5.6
サボテン
New FD 50ミリ F1.4 1/60 F2.8
全てA-1改にて撮影、コダックスーパーGOLD



FDマウントはコンバーターを介せば殆どの他社レンズを受け付けるので、古き東西の鉢玉を使える。レンズの一握りの中心部のみを背誦に使う事がハーフ化最大の悦楽とすればこれこそ絶妙の愉しみではないだろうか。



モチロン、キレ味抜群の新旧FDレンズシステムと併せて、更にA-1を改造ベースにする事で、

- 秒間5コマのモータードライブ(再装填が泣き所)
- ファインダースクリーンの交換が容易(特にココ重要)
- 各AEも使って撮影の歩留まりが良い。
- おまけにシンクロスピードも勝手に向う!

etc…とメリット沢山

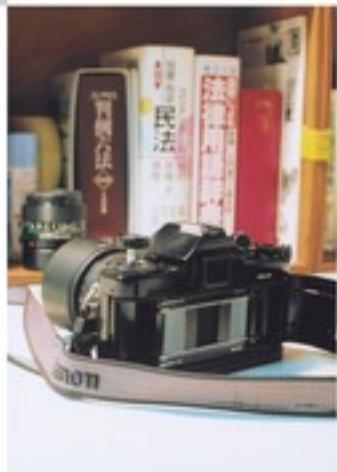


P15のベタ焼き部分についての解説

再装填ハーフサイズカメラなので友人らと窓を見に行った時のコマと仲の良い女の子とバスタを食べに行った時のコマが交差して並んでいる。ちなみに暗室作業は松原先生に教わりながら楽しんでやっています。

カメラ	キャノンA-1改 ハーフサイズカメラ
レンズ	New FD 24ミリ F2.8 + 50ミリ F1.4 + 85ミリ F1.8 使用
フィルム	コダックT-MAX400

細かな改造点は次の機会に……
●ハーフサイズ化への手順
●再装填について
●純正流用でスマートに機能向上
●今後の改造予定と改良すべき点



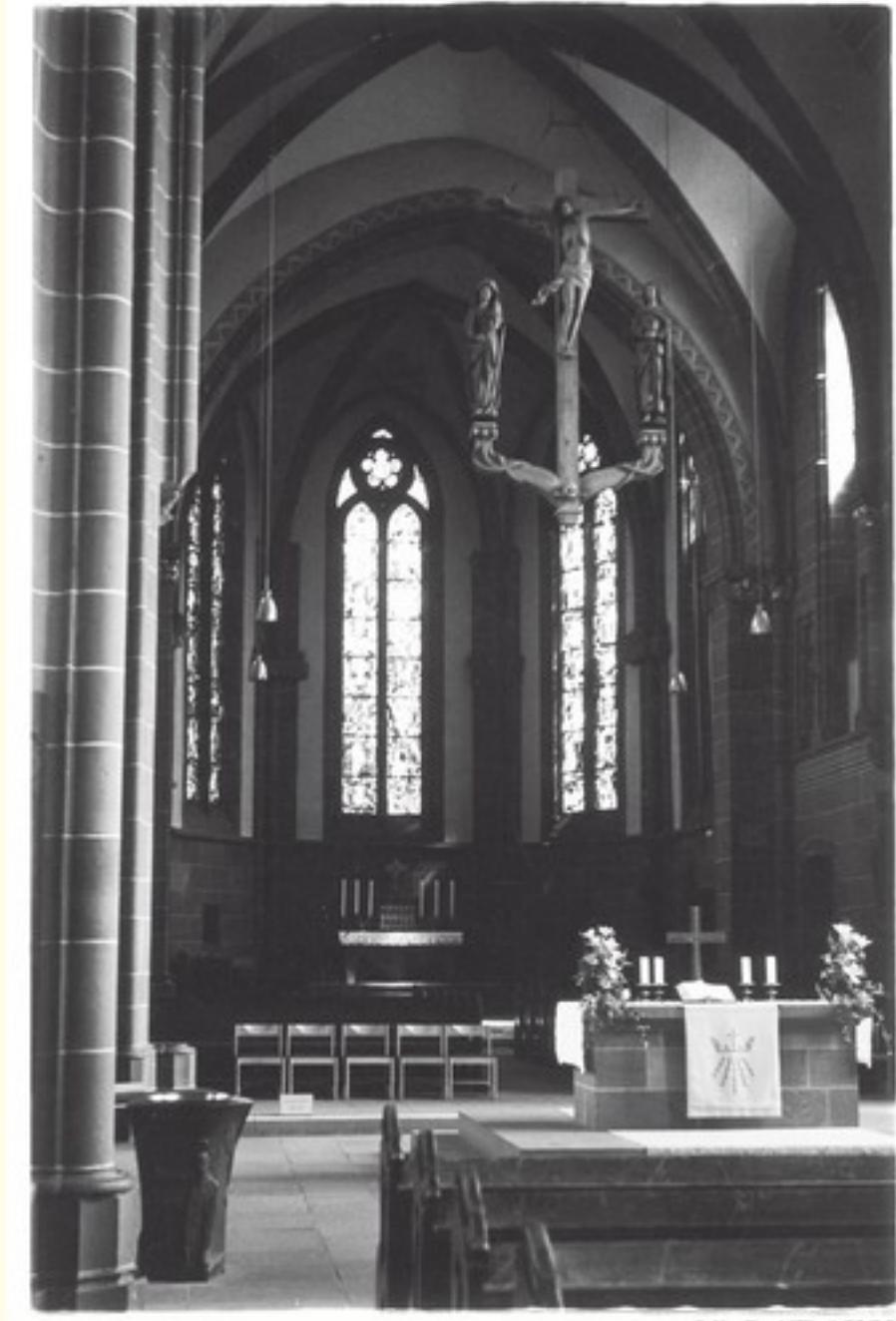
ドイツライカの旅

今年の5月に新婚旅行でライカの撮影を行った時の写真です。上写真はフランクフルトのローマー広場で、これはライアラム閣門としわれる老場所で、私は利用した空港もフランクフルトにありました。そのため現在日本が一番多く、色々街を散策させて頂くことが出来ました。



ペンタックス MX SMC 28/2

そして下の写真が「ライカの奥地」エッカウのアイゼンマルクト広場です。ヨーロッパはオスカーバルナックがヨーロッパカメラの原型とする、ウル・ライカで撮影した初期の写真と全く同じ構成だ。ライカまるで撮影しました。レンズは日本製だけではなく、ドイツのスカラバルナックさんと同様の「ミクスカーバルナックさん」と同じ気分を味わせてもらひ最高な気分になりました。感動です。



ライカ E レンズ 50/3.5

松原 寛人 1980年生

カメラサービス店元勤務

- カメラ・レンズのご相談等お問い合わせ下さい。
- また、当会員諸氏に集中です!! (年会費)
- 西んガヤ西み吉井、西や好イベント日向井しり
- カメラ・写真・モノクロ好きな吉井持ちしています。
- 今から始めるといふ方もご連絡お待ちしています。



ライカ E レンズ 50/3.5

まつり

ゆめ



中島秀二

卷之三十一

ダークメラルかなりの数を持つてお
りいつのまにかコレクターになつて
しまいました。



ある日、父がひつくりむるような「な」と私に向った。「カメラの音でうるさいから、おまえのを撮る」といふので、父には触らせなかつた。父は、かのシャッターを切る私は、カメラを飛ばされた大股に興が満ちあつた。「つづらられた筋肉を見ると、なんともほんとうがめやけて見え見える。」と、一枚だけまどわぬ写りのものか……。そこには、しゃくじ上げて泣いていた娘と、その後ろにひつくり背中をもつて立つ父の姿があつた。父は、娘の頭を抱きしめて、涙を拭ぬぐつた。父は、娘の頭を抱きしめて、涙を拭ぬぐつた。



惠和屋 公子 1969生

東京都墨田区向ヶ丘。かなり変わった性格ながら普通(?)の会社に勤めている。ティベアづくりが趣味。今はフランスのアンティーク雑貨に凝っている。



日常をさり気な

く撮るたのしみ



デコッパチ

MINOLTAの1997年6月siシリーズの最終型α807si～α7000が世界初のAF機能としてデビューしてから、xiシリーズへ以降、ミノルタは一眼レフでインシテリジェントカードシステムを採用。その結果、撮影者の意図を伝えるにくいカメラとなってしまった…そこへ登場してきたのがsiシリーズ。はっきり言ってカメラの歴史でいうならα707siで十分だったのですよ。しかし、リファインされ、GN2Dという当時の内蔵ストロボでは「おいおい」と突っ込まれ兼ねない光量ストロボを頭にくっつけてしまったせいで、α807siの軍帽部はボコッと飛び出てしまった…これがミノルタマニアでの通称「デコッパチ」の始まり…こんなへんてこな形のカメラがα-7が出来るまではフラッグシップの位置をキープしていたって…冗談でしょ？

でも冗談ひなく、その位置をキープしていた…視野率92%だって…今時のEOS Kiss Digitalシリーズだってもっと視野は広いよ…シャッター速度だって30秒～8000分の1って言ってもXは1/200sじゃあ実質は4000分の1シャッターじゃないか！？

でも…でもさ…そんなカメラこそ愛着湧いてしまわない？留ってる君の感情こそ轟震してしまうようなそんな感覚…だから人気のα-7じゃなく、α-807siが好きなのがさっ！？

まぁ考えてもみたらどうせプリントのLサイズ出す時だってネガの内枠ってプリントするわけだし、被写率92%でも問題なくない？8000分の1のシャッターなんてそうそう使わないじゃん？ボルトでも壊れての？そんなのはデジタルで振りゃいいじゃん。

フィルムカメラってのはフィルムカメラの楽しみ方があるの！！背面LCDとかいらないのっ！後にも先にもこんな形のカメラなんてそうそう出ないよ？もしかしたらこの恰好だってAF機能の犠牲者だったのかもしれないし…当時MINOLTAはアメリカのハネウェル社とAF機能の開発で多額の和解金を支払ってたから開発費が足りなかつたのかも…なんて勝手な判決でフォローを入れてみる…人を見るにこそ意義がある…MINOLTAやっぱりポートレイトが良い。ミノルタは人物撮りにこそその真価を発揮する、それはαシリーズ全てにおいていえる…だってレンズが秀逸。でも、それもやっぱα807siがいい…



可否

プライダルや広告ポートレート・イベント記録など主に人物写真を撮る。最近ではイベント関連・プロモーターなども手がける。





岡元 剛志

銀塩君35年。コンパクトカメラにはまって15年。何とか自分の撮影スタイルが確立しそうな矢先のデジカメ時代の到来。老眼でライブビューが見えず移行を断念。

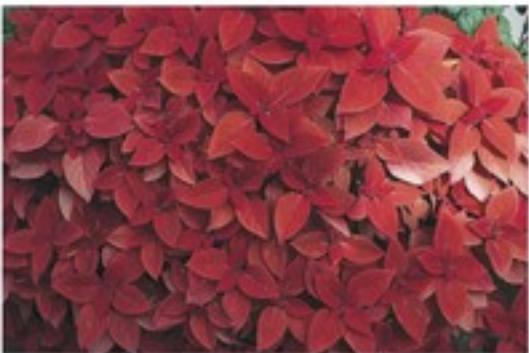
モノトーンの魅力

銀塩写真の魅力は、見る人を飽きさせないモノトーン豊かな語調にある。白は白なりに黒は黒なりに、カラーもしきり、フィルムが奏でる質感描写の妙は、銀塩が粒子集合し結晶化する際の偶然と無限の組み合わせでできている。デジタルカメラの描写力がいかに高まろうと偶然と無限を数値化できないことは明らかだ。



長崎

この街の魅力は、何といっても光の豊かさ。白い道、赤い煉瓦やそれに結まる緑の道、夕方になればオレンジ色の夕日が教会の壁やステンドグラスを照らし不思議な光の空間が出現する。海と丘にはさまれた急な高低差もコンパクトカメラがあれば何のその。楽しい写真散歩が楽しんだ。



Kodak Signet35/Ektar 44mmF3.5

1950年代のアメリカ製カメラ。横浜の十時屋で購入。安いがよく写り、ミッキーマウスとあだ名されるように見た目も有機的でかわいい。実際は、アルミダイキャストですっかり質実剛健。このカメラを肩にかけ、見知らぬ街を写真散歩するほど楽しいひとときはない。聚光はすばらしくよく写り、逆光に弱いが画面全体には悪影響は少なく、それを知った上で被写体を探せば写真散歩の楽しさ倍増。



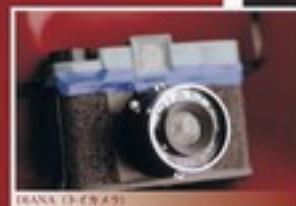
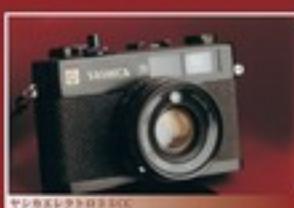


田中 守 昭和28年生

カメラ修理に携わって38年間。写真を撮るといえば家族の行事くらいで、作品と呼べる写真はこれまで一度も撮ったことがない。今回、フィルムカメラを通して当店とご縁の出来た皆さんと本を作ろうという想になりました。私も手を上げたものの…。(苦)そこで、カメラ修理後のテスト撮影を兼ねて撮ってみた写真達。アートのかけらもないのだが、気ままにシャッターを押した。これでいいのだ。楽しければ、アートはみんなに任せよう。

•カメラ ASAHI PENTAX KX
•レンズ smcPENTAX Mzoom24-50/4

•ペンタックスKX 24-50/F4



profile

マルチネス デビッド

某学園の英語教師としてアメリカから赴任。

DIANA (トイカメラ)



ヤシカエレクトロ35CC 35ミリ F1.8

松原

西み会の席で、勢いませで企画し現れた独特な写真集に仕上がりバーチャルード

感じた気がしたのです。
むすめはうだついて、ひじねりーグラードねうつて思つたことは、参加された皆さんが協力的で、参加者同士でアドバイスし合つたり意見を交し合ひながら写真集を作り上げられたといふのです。

実は次回の書籍希望者も現れてるといふが、次回はどんな感じにしようか検討中です。
これからも写真・カメラを追求し、色々な企画を開催致します。

次に予定している企画としては、10月頃のスナップ大会です。このスナップ大会も、参加者が楽しめて1000枚の写真が撮れるような会にできればと検討しております。

じいざがありましたのは写真部連絡下さり。また参言していただきありがとうございました。

次回、第2回の出版があるときは、ひとつ早く、出版が出来ることにがんばります。

6月の西み会で原稿を預かりました。

大脇

発行が遅れてすみませんでした。
6月になってしまった。



アナログプリント

昔なつかし 深み・くせありの仕上がりがたまらないお方！

アナログハロゲンランプ使用銀塩プリンター現役使用のお店として西日本「CAMERA m11」に載りました

CAMERA magazine

うめだカメラ脇田

TEL・FAX 099-256-2668
URL <http://www.umed-hope.com/>
〒890-0073 鹿児島県鹿児島市宇宿3-32-2
営業時間／毎日10時～（月2回）

注文窗口 直接持も込みの他、Web、電話、FAXにて受け付け。

料 金

- ・フィルム料金（1本あたり）135円～800円
- ・プリント料金（1枚あたり）L～30円・HG～40円・ZL～100円／6～400円／100～400円

お詫びからひとこと

アナログプリント専門のページは写真や光沢感にこだわったものを使用しています。同時プリント時には、（大）プリントを最大4枚までサービスでお分けします。仕上がりについても細かい追文をお受けします。

吉岡

西みの1号が
できました。

カメラ・写真を楽しむ人た
ちがもっともっと増えしていく
いいなと思います。

写真の将来と可能性をたがいに追求する・・・

リバーサル現像（翌日仕上げ）・サービスサイズ（即日仕上）
写真加工・プロプリント・デジタル・アナログ・集合写真・ポストカード

株式会社

プロラボ

写ネット

〒891-0140
鹿児島市星ヶ峯2-29-5
Tel&Fax 099-299-0066
E-Mail: yanet@pa5.synapse.ne.jp



↑ 第1回

DARK ROOM TRIP

暗室作業へのいざない

興味はあるが果たして自分で暗室作業ができるのか？

という話はモノクロ写真を始めた方に限らず、写真やカメラが好きな方に必ずしも出てくるフレーズではないだろうかと思います。

また現在デジタルカメラが普及し、自宅プリンターで高画質なモノクロプリントを気軽に楽しめる時代ですので、どちらかというと手間の掛かる暗室作業というのは、敬遠されがちになっているのが現状ではないかと思います。

しかしこの手間の掛かる作業こそがモノクロプリントの良し悪しを左右する工程であるため、難儀な工程であるが、人を懸念する最高な時間でもあります。

しかしそう言っても、暗室方法の習得・暗室確保・用品準備等、色々不安要素が発生してしまいます。

現在インターネットの普及で暗室情報は多くなりつつありますが、「ローカル情報」というものは影を潜めている状態です。

「dark room trip」は鹿児島でモノクロ暗室を楽しんでいる方を訪問し、その方の暗室場所・独自の暗室方法、またアドバイスやメッセージを掲載してローカル情報というものを豊富に出来ればなと思い作った企画です。

さて第一回目のTRIPは、我々の本拠地カメラサービス鹿児島の暗室です。

当暗室は元々給湯室であったが、鹿児島でも気軽に暗室を楽しめるよう改造して作ったレンタル暗室であります。

ここは3人入ると窮屈ですが、逆に言えば誰にも邪魔されず集中して楽しめる場所であります。

現に利用者の大半は、5時間から6時間近く利用される方が多いです。

使用引伸ばし機はラッキー90M、中判(6×9)までのネガ使用可能で、四つ切までプリント可能です。

レンタル料金は1時間840円と格安でありながら、4時間以上は1時間当たり半額設定になる仕組みです。

ここには多数のモノクロ好きな方が集まる場所になっておりますので、初めての方でも自然に仲間ができます。

気になる方はカメラサービス鹿児島のオレンジ色に輝くダークルームへTRIPしてはいかが……

カメラサービス鹿児島編



ROLLEIFLEX 2.8GX NEOPANACROPRESTO



吉岡 康弘
○プロフィール: カメラ編集者

の見えや使い勝手はヤシカよりいいと思います。ただ、レリーズの感触は露出計のスイッチも兼ねるローライの感触よりヤシカの感触が数段よいと思います。撮写の感覚で選んでしまう。

撮りさせてください」とお辞儀をするように構えるスタイルや巻き上げ、チャージなど一連の撮影のリズムがとても楽しくてすばらしい。レンズ交換ができるからまたお好きです。二眼レフは手間のかかるカメラですが、ゆったりと遊ぶ体に向き合える心地よいカメラです。



YASHICA D TLR X

二眼レフはますそのスタイルが楽しむところがあります。バルナックタイプのライカが最も美しいといふ意見も多いと聞いますが僕はどちらの方が好きです。

初めて二眼レフのファインダーを覗いたときはなんだか寒りの無い古びテレビの画面をみている様な感じだったと記憶しています。今ではすっかり慣れてしましましたが左右が逆に見える像もともと新鮮でした。僕の二眼レフはグレーのヤシカDとローライフレックス2.8GXの二台です。ヤシカは少し暗めに感じる強い光が直で入ってくるとつづらとした感じになります。ローライは比較的新しいボディなのでファインダー

二眼レフの気分





プリンパッ! prinpa

名刺・ハガキ・チラシ(オフセット等含む)
メニュー・シート・大判出力・冊子・会社案内

「プリンパッ!」はオンラインショッピングと同じ要領でホームページから、簡単に印刷サービスをご注文頂くことができます。ご注文内容の確認や商品発送の連絡は、メールでお知らせが届くので安心です。(急校正サービス実施中!)

手軽に「印刷物を」注文できる
ネットショップ!!

プリンパッ! ご注文の流れ

- ご注文フォームより、印刷内容・用紙・数量などを選んで注文。
- メールでの添付、ファイル転送、またはMO・CD・DVDを郵送にて、印刷データをご入稿下さい。
- 最終出力紙をFAX送信、またはスク린ショットをファイル送信して下さい。
- 「プリンパッ!」から受注確認メールが届いたら注文金額を入金してあとは待つだけ。
(銀行振込・郵便振替・代金引換・クレジット決済・デビットカード決済OK)

<http://www.prinpa.net>

by Fuchigami Printing Corporation



印刷物の
これからのカタチ。

デジタルコンテンツポータルサイト
2次元読書
nijidoku.com

「ニジドク」は、九州・沖縄地方の印刷物をデジタルブックとして掲載しているデジタルブックのポータルサイトです。



2次元読書が貴社の印刷物を
次のステージへ運びます。

カタログやチラシ・情報誌などを
デジタルブック化して2次元活用しませんか?

たくさんの人に見てもらえる

- インターネット上で、いつでも見てもらいます
- 貴社サイトから直リンクを貼って広報できます
- お問い合わせ欄付近でネットショップを開設できます
- 実際の印刷物を見るようにパラバラと表示できます
- WindowsでもMacでも見られます
- 複数ページの印刷物でもサクサク動作します

制作コストを削減

- 印刷物データがそのまま利用できます
- お問い合わせ欄付近でネットショップを開設できます
- 印刷のプロにすべてお任せ
- 印刷のプロが責任をもって作成します

今ならデジタルブックの掲載費が
30%OFF
・契約期間 12ヶ月
・月額費用 0円

※キャンペーン期間: 2010年3月31日まで



【CLASSIC CAMERA Vol.1 改訂版】
ニジドクで好評配信中!!

- フィルムカメラ好きの仲間15人が作成した「CLASSIC CAMERA」のすべてをご覧になることができます。
- その他にも、チラシやカタログ・情報誌など様々なデジタルブックを無料でご覧になることができます。

渕上印刷

ご不明な点は何でも
お気軽にお相談ください。【受付時間】平日08時30分~17時30分
(099) 266-3421

詳しくはウェブで。
nijidoku.com
ニジドク

検索

う~ん、今ハヤってるものってなんだろ?
冬の新メニューが登場しました!
天文館のおいしいお店を探しています!
この度、店舗を新装いたしました。
お近くにお越しの際はぜひ…
通勤途中で新しいお店を発見!
気になる~!!
ついに私もブログ始めました。
つたえるヨロコビ。つながるシアワセ。
ボティカ 検索

http://www.potika.net

Potika ボティカ

Eating Living Enjoying

ボティカは、ブログツールの提供を通して鹿児島での情報を発信・収集する、地域密着型のブログポータルです。

T891-0122 鹿児島市南栄3-12-2 ☎099-260-7687 FAX.099-284-5050 渕上印刷株式会社 ボティカ事業部